

「こんな浜松市に誰がした？」

◎わたしたちは、「浜松市は、平和な音楽の町」と考えています。確かにそうです。有名な楽器製作会社や、ピアノ製作会社があり、様々なジャンルの音楽コンクールやコンサートも行われ、世界的古楽器を所蔵する楽器博物館もあります。

◎けれども、よく実状を知ると、そうではないどころか、「平和・音楽」とはまったく反対の、戦争に直結することが、自衛隊・浜松基地周辺に、多く見られるのです。

◎今年になって、実際に、次の出来事がありました。

\*一月十七日 米空母（インデペンダンス）艦載機F18ホーネットが、浜松基地に、六機も緊急着陸（尚、七月の米のイラク攻撃には、この艦載機が出撃）。

\*三月二五日 ついに、浜松基地に、AWACS二機が配備される。と共に、テスト飛行開始。同時に、警戒管制司令部も浜松基地に移された。

\*五月十日 米空軍のトップである、マイケル・ライアン大將（参謀総長）が在日米軍司令官を伴い、航空自衛隊・空幕僚長の案内で浜松基地を視察。

◎皆さん、以上の事は何を意味するのでしょうか？

それは、日米・新ガイドラインの布石の一つとして、浜松基地が、これまでの「教育訓練基地」から、「航空自衛隊の中枢司令基地、及び実戦基地」への移行を意味するのです。

◎これが、浜松基地と浜松市の実状なのです。皆さん、こんな浜松で良いのでしょうか？そして、こうなったのは、単に日本政府が悪い、それを受けた浜松市当局が悪いのではなく、そうさせてしまった私たちの責任でもあるのです。

◎しかし、いまからでも遅くはありません。もう一度、平和憲法に立ち、静かな、「平和な音楽の町」を取り戻そうではありませんか！

一九九八年七月十二日（日）第三七七回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〜十五